2021年度東京都立高校一般入試

国語 入試分析

～入試ではこう出る！！～

【出題内容】

全25問　1問5点（1・2（漢字の読み取り・書き取り）は各2点、4-5（作文）は10点）

1・2の漢字問題はコロナ禍の制限で易化。「ピアノのドクソウ」「バスのシャソウ」の書き取りができれば全問正解であろう。

3・4の文章問題は例年並み。3の伊吹有喜『雲を紡ぐ』は2020年の直木賞候補作品。「家族のつながり」「将来への希望」という定番のテーマ。4は建築家堀部安嗣の著書『住まいの基本を考える』で、建築が題材に「懐かしさ」の本質について、例を挙げてわかりやすく説明している。200字の作文問題は「『記憶の拠り所』となるもの」がテーマ。思い出を呼び起こすようなものを例に挙げ、**文章内容に合うようにしっかり説明できれば**、高得点が取れる。

5の評論文の問題では鴨長明を取り上げ、その生涯に見る長明のひたむきな生き方を論じている。4での建築や人々の懐かしさに対する誤解といった例もそうだが、国語だけでなく、社会で学んだ歴史的な背景、音楽や美術などで学んだ文化的な教養も成功につながるカギとなる。**中学校で勉強することすべてを無駄にしない**という日頃の心がけこそ大切だ。

〈8年間の小説問題の出典〉

【2021年】伊吹有喜『雲を紡ぐ』
【2020年】瀬那和章『わたしたち、何者にもなれなかった』
【2019年】三浦哲郎『燈火』
【2018年】澤西祐典『辞書に描かれたもの』
【2017年】あさのあつこ『一年四組の窓から』
【2016年】伊集院静『どんまい』
【2015年】原田マハ『斉唱』
【2014年】長野まゆみ『夏帽子』

★有名作家の作品の出題が多いが、昨年はライトノベル小説。様々な作家の**短編集**や**エッセイ**で手軽に経験を増やせる。

〈8年間の作文問題の主題〉

【2021年】「『記憶の拠り所』となるもの」
【2020年】「理想の組織」
【2019年】「新しい『何か』に出会うこと」
【2018年】「自分の意志を持つこと」
【2017年】「食生活と歴史」
【2016年】「基本を身につけること」
【2015年】「取り合わせの美」
【2014年】「環境の持続可能性」

★普段から**自分の体験や見聞を広げ、またそれを書き留めておく**とよい。（おすすめは短文の**日記**。効果があります。）

実際の問題にチャレンジ！

5

〔問3〕(3) 俊恵から与えられたアドバイスについては、長明が書いた歌論書の『無名抄』にいろいろ出てきますが、とあるが、Bの原文において、「俊恵」が良いと思う歌はどのようなものだと書かれているか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア　証得して、われは気色したる歌詠み給ふな
イ　われ至りにたりとて、この頃詠まるる歌
ウ　何によりてかは秀歌も出で来む
エ　風情もこもり、姿もすなほなる歌

B
歌は極めたる故実の侍るなり。われをまことに師と頼まれば、このこと違へらるな。そこはかならず末の世の歌仙にていますかるべき上に、かやうに契りをなさるれば申し侍るなり。あなかしこあなかしこ、われ人に許さるるほどになりたりとも、証得して、われは気色したる歌詠み給ふな。ゆめゆめあるまじきことなり。後徳大寺の大臣は左右なき手だりにていませしかど、その故実なくて、今は詠みくち後手になり給へり。そのかみ前の大納言など聞こえし時、道を執し、人を恥ぢて、磨き立てたりし時のままならば、今は肩並ぶ人少なからまし。われ至りにたりとて、この頃詠まるる歌は、少しも思ひ入れず、やや心づきなき言葉うち混ぜたれば、何によりてかは秀歌も出で来む。秀逸なければまた人用ゐず。歌は当座にこそ、人がらによりて良くも悪しくも聞こゆれど、後朝に今一度静かに見たるたびは、さはいへども、風情もこもり、姿もすなほなる歌こそ見とほしは侍れ。

歌にはこの上ない昔からの心得があるのです。私を本当に師と信頼なさるのならば、このことを守っていただきたい。あなたはかならずやこの先の世の中で歌の名人でいらっしゃるに違いない上に、このように師弟の約束をされたので申すのです。決して決して、自分が他人に認められるようになったとしても、得意になって、われこそはという様子をした歌をお詠みなさいますな。決して決してしてはならないことである。後徳大寺左大臣藤原実定公は並ぶものない名手でいらっしゃったが、その心得がなくて、今では詠みぶりが劣ってこられた。以前、前大納言などと申し上げた時、歌の道に執着し、他人の目を気にし、切磋琢磨された時のままであったならば、今では肩を並べる人も少ないであろう。自分は名人の境地に到達したのだと思って、近頃お詠みになる歌は、少しも深く心を込めず、ややもすれば感心しない言葉を混ぜているから、どうして秀歌も出来ることがあろうか。秀作がなければ一度と他人は相手にしない。歌は詠んだその場でこそ、詠み手の人となりによって良くも悪くも聞こえるが、翌朝にもう一度静かに見た場合には、そうは言っても、情趣も内にこめられ、歌の姿もすなおな歌こそいつまでも見ていられるものです。

Heart&Hard
北進ゼミナール